

令和7年度
二戸市立福岡中学校
学校だより
第9号

永遠の躍進

発行日 R7. 12. 1
発行者 校長 中野 善文
二戸市福岡字下川又22-1
Tel 23-3325

学校教育目標

意欲に燃え、自ら学ぶ生徒【自学力】

規律を守り、責任を果たす生徒【責任感】

剛健で、実践力のある生徒【実践力】



福中旋風！巻き起こす！！

県新人大会上位入賞

11月15・16日の2日間にわたって開催された岩手県中学校新人大会において、剣道部女子、柔道部女子、卓球部女子が団体の部で素晴らしい成績を収めました。

どの選手も緊張の初戦から、徐々に持ち前の力を発揮し続け、接戦を勝ち上がりました。

剣道部女子は、決勝で代表決定戦を制し23年ぶり3度目の優勝に輝きました。準優勝の柔道部女子、第3位の卓球部女子とも惜しくも優勝は逃したものの、二戸地区の代表・福岡中学校の代表として誇らしい活躍を果たしました。

来年の地区中総体まで約6か月。各部ともそれぞれの目標と目標達成のための練習と対策を具体的に計画し、日々の練習に励んでください。



【さわやかな感動】優勝した剣道部女子は、試合以外でも会場で称賛されたことがありましたので紹介します。

試合当日、会場2階観客席にいた校長に挨拶をしに選手がフロアに整列しました。校長はフロアに近づき、挨拶を交わし選手に激励の言葉を述べました。選手の皆さんは、「ありがとうございました」と一礼し開会式に向かいました。

これは、いつもの行動・試合前の流れですが、選手の礼儀正しさ、話を聞く態度、さわやかさを他校の監督や保護者が素晴らしいと褒めてくださり、「応援します」と言ってくださいました。剣道女子の優勝の裏には、このような日頃の心構えや会場を味方にする魅力があったからかもしれません。応援されるチームでありたいですね。

文化面でも輝きを放つ福中生

福中生の輝きは文化面でも光を放っています。11月6日（木）、二戸市民文化会館で開催された二戸地区中中学校総合文化祭で、2人の生徒が表彰されました。

【スローガン最優秀賞】「創造しよう新たな文化

3年 松田麗依 進もう夢に繋がるその一歩」

【わたしの主張岩手県大会 優秀賞】

3年 柴田咲来 「地域の宝を守る」

11月7日（金）に同会場で開催された二戸市福祉大会では、作文コンクールで2人の生徒が表彰されました。

優秀賞

3年

横田花凜



優秀賞

3年

佐藤華乃



仕事メッセ in なにゃ〜と

10月28日（火）に開催された「仕事メッセ」は、これまで高校生を対象に行われていましたが、今年度から中学2年生も参加しました。地元企業を中心に33団体が参加し、企業紹介や仕事の魅力等を丁寧に説明されました。将来を考える貴重な機会になったようです。



避難所運営体験(HUT) そのときあなたは

11月18日(火) 5・6校時に、岩手県学校防災アドバイザーの塚本清孝氏を講師にお招きし、3年生による防災安全教室「避難所体験(HUT)」を行いました。これは、昨年度の「避難所運営ゲーム(HUG)」の実施訓練に当たるもので、実際に避難所が開設されたときに、どのようなことがあるのかの一部を体験する学習です。状況設定は、以下の通りです。

大雨により中学校の周辺で土砂災害警戒情報が出され、馬淵川の一部で浸水が始まっていることから、福岡中学校が避難所として開設された。生徒は避難所運営側、避難者側に分かれ、避難所で想定される事象を体験する。

一人一人が、避難所運営者と避難者の役割を与えられ、その場で考えられる行動を一生懸命に思考しながら行動に移しました。

避難者の中には、妊婦・熱を出している方・車いす生活の方などさまざまな方がいて、受付係が聞き取りをし決められたブースに割り振り、担当者が連れていくという流れで対応に当たりました。対応するその姿は、普段の中学生の姿よりも頼もしくとても立派でした。

当日の天気は小雪がちらつく天気で、14年前の東日本大震災の天気に似ていました。当時、多くの避難所で不安におびえていた人々を中学生が勇気づけたという報道がたくさん紹介されました。

近年の異常気象を考えると、馬淵川の氾濫、土砂災害警報等、近い将来に実際に起こりうるものとして備えておかねばなりません。

もしも、避難所が開設されその場にいたとき、中学生・高校生になった皆さんができることが何かあるはず。福岡中学校で学ぶ(学んだ)皆さんが、そのとき地域の力になることを信じています。



本校のキャリア教育とPTA活動について、「みんなで推進『いわて教育の日』第42号」で紹介する機会をいただきました。県内の教育関係者に配布されたものです。ご一読ください。

(5) 令和7年10月1日

みんなで推進 いわて教育の日

第42号

「幸福度の高い生徒の姿」はさまざま考えられますが、本校では、自己有用感を高め「なりたい自分」「ありたい生き方」の実現に向けて努力する生徒、地域を愛し地域の発展に尽くす生徒の育成が重要と考え、キャリア教育と復興教育を学校経営の軸に据えています。

「キャリア教育の充実」を図る上で欠かすことのできないPTA事業が「大人に学ぶキャリア講演会」です。この事業は、平成二十六年度から子どもたちの「生き方指導(生きる力)」と「キャリアプランニング」を目的に始まり、当初は、学年PTA行事でしたが、二十八年度から全校生徒を対象に十講座を開講し、現在では十五講座まで拡大しています。

「講師選定」は、PTA三役が中心になって人選します。全PTA会員に候補者の推薦を募り、その結果をもとに十五名を選出し、承諾を得ています。講師は、これまで延べ百名を超え、その多くは本校の卒業生です。また、その職種も多岐にわたります。

「幸福度の高い生徒の姿」はさまざま考えられますが、本校では、自己有用感を高め「なりたい自分」「ありたい生き方」の実現に向けて努力する生徒、地域を愛し地域の発展に尽くす生徒の育成が重要と考え、キャリア教育と復興教育を学校経営の軸に据えています。



【はじめに】本校は、目指す学校像を「共に学び共に高め合う幸福の岡」とし、生徒・教員・保護者それぞれの幸福度を高められるように日々の教育活動を進めています。

「幸福の岡」の実現を目指して
PTAと共に進めるキャリア教育

二戸市立福岡中学校 校長 中野善文

学校

地元企業代表取締役(職員)、市役所職員、映像ディレクター、福祉関係職員、建築士、シェフ、ラジオパーソナリティ、宮司、銀行員、家屋調査士、ファイナンシャルプランナー、医師、薬剤師、看護師、助産師、保健師、理容師、農業経営者、消防士、保育士、幼稚園教諭、新聞記者、警察官

【未来を思い描く】生徒は、十五講座から二講座を選び受講します。講師の方々の経歴や仕事を選んだ理由、中学生時代の話を目を輝かせて聞いています。そして、将来の自分を思い描きながら、今後の中学校生活と「なりたい自分」「ありたい生き方」についての考えを深めています。

今年度、これらの学びを深めるために、本校ではキャリアパスポートの有効活用に取り組んでいます。

【おわりに】本講演会をはじめ避難所訓練ゲーム(HUG)・メディアコントロールの取組等が評価され、本校PTAは、昨年度県の教育表彰を受賞しました。

この素晴らしいPTAの皆様とともに、「幸福の岡」の実現を教職員一丸となって進めてまいります。

